

支援便り



令和7年8月発行 第2号

串木野特別支援学校 支援部



「特別支援教育夏季セミナー」を開催しました！



地域のセンター的機能の役割を果たす取組の一環として、今年度も夏季セミナーを開催しました。50人の定員を超える申込みがあり、62人の先生方（幼稚園・こども園9人、小学校37人、義務教育学校1人、中学校13人、高等学校2人）に参加していただきました。

今回は、鹿児島県こども総合療育センターとの共同研修ということで、センターよりお二人の先生方に来ていただき、講話を拝聴したり、情報交換会を行ったりしました。

講話① 「こども総合療育センターの機能と受診の仕方」

鹿児島県こども総合療育センター 地域支援課 原 正憲 先生

前半は、県こども総合療育センターの役割や受診までの流れについて話していただきました。参加者からは、「療育センターについて知るよい機会となった。」「校内委員会の重要性、各学校（園）内での支援体制の強化が求められていると感じた。」といった意見がありました。医療（療育センター）へつなげる前に、各学校（園）でできることについて考える良い機会にもなりました。

後半は、保護者支援について実践例をもとに話をいただきました。参加者からは、「支援+できた様子をセットで伝えるという話が印象的だった。」「困り事だけを伝えがちだが、子どもの良さを伝えることを実践したい。」などの意見がありました。当たり前のことかもしれませんが、解決を急ぐのではなく、保護者に寄り添い、一緒に考え続ける姿勢を大切にしたいと思うことでした。

鹿児島県こども総合療育センター
受診に関するQ&A
ガイドブック



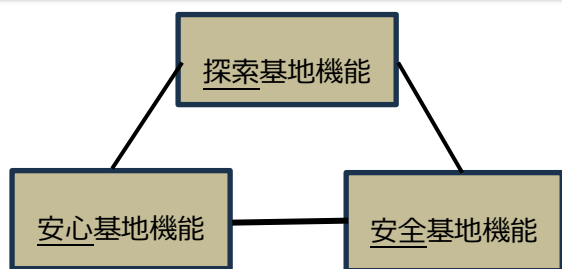
令和7年4月版
鹿児島県こども総合療育センター



療育センターについて知りたい方はぜひご活用ください。

講話② 「愛着の問題とその理解について」

鹿児島県こども総合療育センター 精神科 医師 田畑 健太郎 先生



愛着とは「特定の少数の人との間に結ばれる心の絆」のことです。子どもにとって恐怖や不安から守ってくれる「安全基地機能」、そこに行くと落ち着く、ほっとする「安心基地機能」、そこから離れても大丈夫で、離れて行ったことを報告して認めてもらう「探索基地機能」の三つの機能があります。この絆が育っていない問題が、愛着の問題です。

講話では、愛着障害と発達障害の違いや関連性、子どもの背景を理解することの大切さ、分離不安や感情表出が苦手な子どもへの対応、安心できる環境づくりの工夫など、現場で直面する課題に対して具体例を示しながら話していただきました。

愛着の課題は、たくさん話して、たくさん遊んで、関係性を築くことで改善していくそうです。安心できる環境づくりやポジティブな感情の共有、成功体験を増やしていくことが大切だということでした。

参加者からは、「子どもの顔が浮かんできた。」「感情共有に役立つ日記指導を取り入れたい。」「愛着についてもっと学びたい。」という声が上がりました。愛着の問題について正しく理解し、子どもとのよりよい関係性を築くことを目指すきっかけになったのではないかと思います。

情報交換会

講話後は、情報交換会を実施しました。本校の特別支援教育コーディネーターが進行をさせていただき、10グループに分かれて情報交換をしました。各学校（園）の現状や課題、うまくいっている支援などを中心に活発な意見交換がなされました。

地域のネットワークづくりの場にもなったようです。

～各グループで話題になったこと～

特別支援学級での指導の工夫

異学年での授業運営の難しさの共有。

課題後の自由時間の設定、子ども主体の流れづくりなどの工夫の紹介。

講師より、構造化、ゲーム性のある活動、学び合いの工夫が有効と助言。

個別指導計画の作成と活用

作成の負担や活用不足が課題。

書式や記入回数の違いがあり、使いやすい様式の共有が望まれる。

保護者対応・支援

特別支援教育への抵抗感が強い保護者への理解促進には、将来像の共有や事例紹介が有効。

子どもの声を通じて保護者の意識が変わることもある。

気になる行動への対応

子どもの背景を探りつつ、保護者への伝え方に配慮。

愛着形成は保育者も行えるが、保護者との連携が重要。

支援学級と支援学校の違い

教育課程や職員体制、進路面での違い。学びの場については、総合的な判断が必要。

高校進学・就職支援

城西高校のコース紹介、受験の際の合理的配慮の事例などが紹介された。

校内委員会について

校内委員会の運営方法の紹介。話を聞くこと自体が支援になるとの声も。

自立活動の工夫

いろいろな活動の中で常に自立活動の目標などを意識している。



参加者からは、「保護者対応や進路指導などのヒントが得られた。」「同じ悩みをもつ先生方との交流が励みになった。」「ざっくばらんに話してよかった。」「自分も頑張ろうと思えた。」「元気が出た。」など前向きな意見をたくさんいただきました。

子どもたちが安心して学ぶためには、先生方の心のゆとりや笑顔が一番必要かもしれません。前向きな気持ちになれる情報交換会にさせていただき、本当にありがとうございました。

田畑健太郎先生の資料から

「子どものトラウマがよくわかる本」
白川美也子著

各学校（園）の保健室に置いて欲しい
1冊として紹介がありました。



感情に
目を向ける
ツールとして

「こころキャラ図鑑」

池谷裕二／監・クリハラタカシ／イラスト